

防ぐことができるのはテロだけじゃない。やって損なし！セキュリティの強化。

8月にイスラエルで、10月にはバリ島でテロが発生し、日本人を巻き込んだ。また、アルカイダが「米国の同盟国も攻撃の対象とする」とコメント。しかしながら日本人の警戒心はいまだ薄い。現在、筆者が滞在するイスラエルではすべての列車駅や主要バスターミナルではもちろん、ショッピングモール、クラブなどの入り口で荷物検査と金属探知器、口頭によるチェックを行っている。最初は煩わしかったが、今ではすっかり慣れてしまい、なんてことはない。むしろこの方が安心だ。日本国内ではそこまで徹底しなくても良いと思うが、セキュリティに対する意識の高さは見習うべきだと筆者は考える。日本は安全なんて妄想に過ぎない。日本は地下鉄サリン事件や連合赤軍を生み出した国。でも、筆者は日本の警備にその自覚を感じ取れない。また、警備の強化が依然として増え続ける痴漢やひったくり、万引きなどの防止につながるわけだし、やって損することなんか何もないはず。身近な人が11月にケニアで起こったテロからほんの数日の誤差で逃れた今日この頃、筆者は日本を憂う。

いまだどきの歴史

一番新しい日本のページ

京都通の育成？

「自称：京都通」はもういない。民間が京都の文化継承に動き出した。



こんな京都通は

せ、かくの舞妓変身も
台無し……

オススメできません。

主婦や学生、大学教授を中心に構成された京都市のNPO「遊悠舎京すずめ」が京都の職人や芸術家たちを招き、「京すずめ学校」を10月に開校した。目的は観光名所の知識だけでなく、文化や伝統産業、生活の知恵など「真の京都通」を育成すること。この企画は京都府外の人にも興味深い。京都府在住の人にも魅力的。というのも、観光客に京都のことを尋ねられても、意外ときっちり答えることができる人が少なくなっているからだ。特にここ数年は京都特集をうたった雑誌が乱発。観光然としたスポットばかりを紹介する特集もあれば、穴場ばかりに偏った特集もあり。しかし、それが京都の本質につながっているのかどうかは、まったくもって別の話。確かに美味しい店や珍しいスポットを紹介するのは簡単だが、京都の町衆文化や自然風土をベースに京を語ることは非常に難しい。「京すずめ学校」のように、民間レベルで京都を伝えてくれるのは弊誌としてもありがたい限りだ。

ぞもこの人には

セキュリティチェックは通じない？



「夕方4時になったら
便器から手が伸びて…」

京都山科区の某小学校にあった『4時ババ伝説』



これも都市伝説…!?

これって都市伝説？

善意を踏みこむ怪情報にご用心！
収集活動は事前確認後に始めよう。

京都府峰山町の女性がアルミ缶のプルトップを収集して換金し、福祉団体に車イスを贈る活動を行っている。しかし、彼女のように責任を持って換金し、福祉団体に車イスを送る人がいればいいが、この手の話はたくさんある。時にはタバコの銀紙であったり、割り箸の袋であったりと、実に多種多様。集める数も3000個で車イス1台であったり、10000個であったりと諸説もろもろ。これに対しJTは「このような活動は当社は行っていません。銀紙を回収して車イスと交換する団体は知らない」とHP上でコメントしている。かくいう筆者もかつては友人に呼びかけられ、大量のタバコの銀紙や空き缶のプルトップを収集していたひとり。しかし、実際に換金されたかは不明。峰山町の女性のように責任を持って換金し、実際に車イスを寄贈している人がいる反面、他人の善意を踏みこむ怪情報が流れているのは実に虚しい限り。収集活動は始める前に確認をお忘れなく。



文◎大塚 祐希

1200年の古都・京都から、突然5000年前の超古都・イスラエルに渡り情報を発信中。一步距離を置いたところから今の日本。そして京都の今を見つめ、未来を切り開くことができるか？ウェブサイトは <http://www1.ocn.ne.jp/tsukakoshi/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちや、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>